



学校だより 新潟市立江南小学校

令和5年7月21日

江南の子

令和5年度
第5号

いつも「大事」

校長 藤塚 静治

あおぞら学級には生き物コーナーがあります。子どもたちは様々な生き物を大事に育てています。餌になるものは何か、水換えや掃除をどのようにするのか、生き物それぞれについて調べては、声を掛け合いながら熱心に世話をしています。

7月に差し掛かった頃、カマキリの幼虫を見つけてきた子どもがいました。虫かごの中で世話をしていました。ところが、ある日のこと、2回目あるいは3回目の脱皮がうまくできずに、歩けない状態になってしまいました。

子どもは心配して、いろいろと調べては考えました。まず、動けないことから、横になっていることが苦痛でないようにティッシュで敷布団を作りました。そして、頭の近くに昆虫用のゼリーを置きました。しかし、置いてあるだけでは食べることが難しいことが分かりました。そこで、タブレット端末にて調べたところ、ちくわやヨーグルトを直接食べさせるとよいことが分かり、家庭から持ってきました。それを聞いた学級担任は、自分でも用意してきました。食べさせようと口に近付けたところ、予想以上によく食べました。世話をしているみんなで喜び合いました。

もっと元気になってほしいと思い、再び適切な餌について調べました。すると、トウモロコシと牛乳も大丈夫と分かり、カマキリの口の大きさに合うスプーン状のもので与えました。どちらも、カマキリは頭の部分を少し高く上げ、たくさん口にしました。

カマキリの成長について説明がされている図書を、学校図書館にて司書に探してもらいました。そこには、次のように書いてありました。

成長

食べる餌の量によって、カマキリの成長には差が生じます。飼育の記録では、オオカマキリのばあい十分に餌を与えると、2カ月で成虫になりますが、足りないときにさらに伸びます。雄と雌では幼虫の齢数に違いがあり、雄では6齢または7齢のものがあ^{れい}り、雌ではすべて7齢まであります。一般に雄の方がはやく成虫になります。成長に差は生じても、けっきょく秋には共に成虫になって繁殖行動が一緒にできます。

出典：佐藤有恒・高家博成著「カラーアルバム 昆虫「オオカマキリ ウスバカゲロウ」誠文堂新光社1995

一日でも早く、成虫に近付けることを心から願うばかりです。

今年度、学校・家庭・地域それぞれの生活において、子ども一人一人が力を高めていく機会があったことと思います。その機会は、程度に差があるように見えたかもしれませんが、子どもにとってはいつも「大事」なことだったと思います。周囲の大人は常に温かく見守り、認めていきましょう。38日間の夏休みを迎えます。江南の子どもたちがますます輝く期間となることを願っています。

